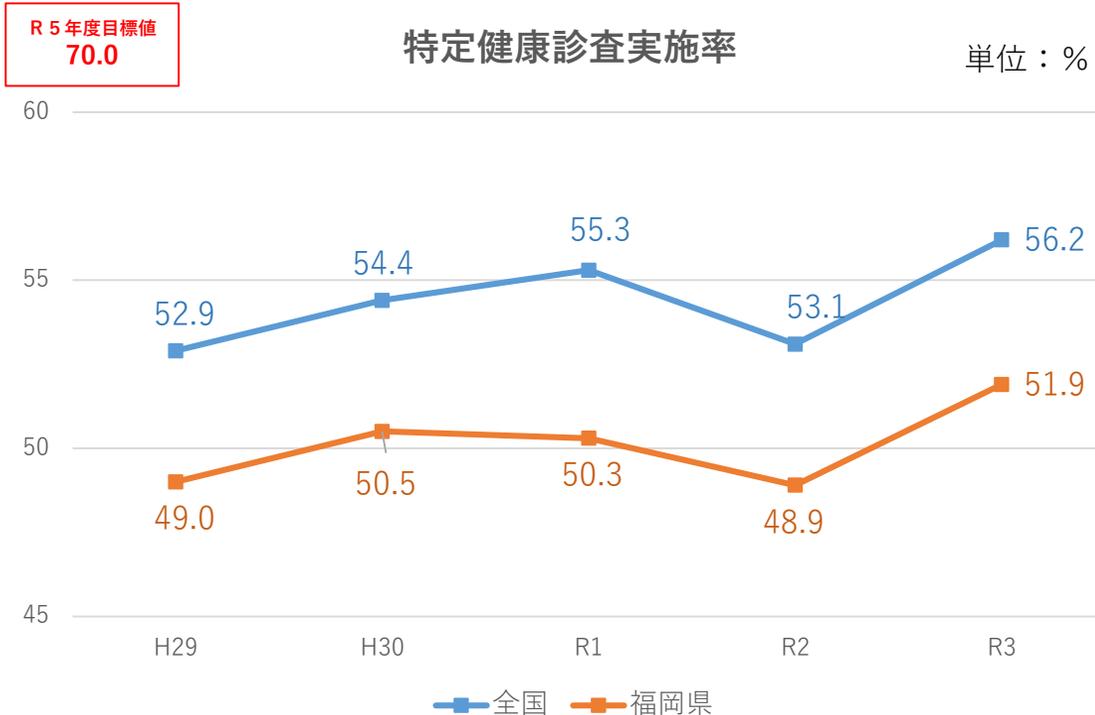


第3期医療費適正化計画 進捗状況の調査・分析（添付資料）

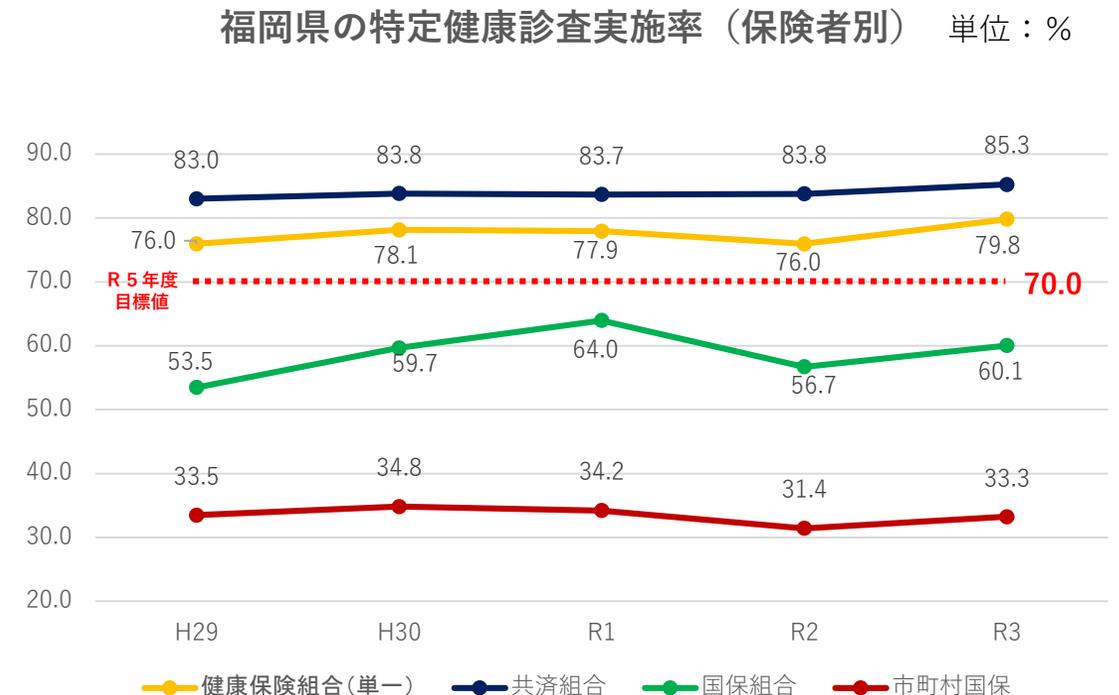
福岡県保健医療介護部保健医療介護総務課

特定健康診査の実施率

- ・令和3年度の本県の実施率は、前年度と比較して3.0ポイント上昇し、51.9%となっている。
- ・いずれの年度においても、全国値を下回る実施率となっている。
- ・保険者別の受診率では、市町村国保が低い状況が続いている。



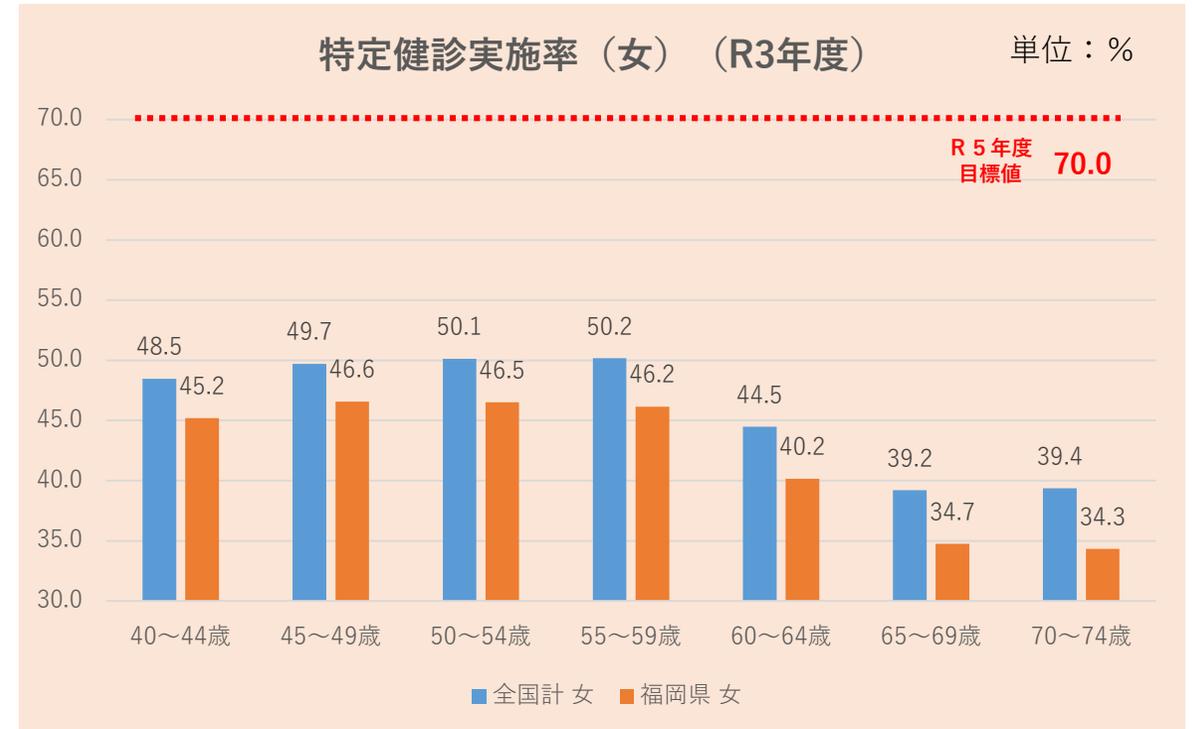
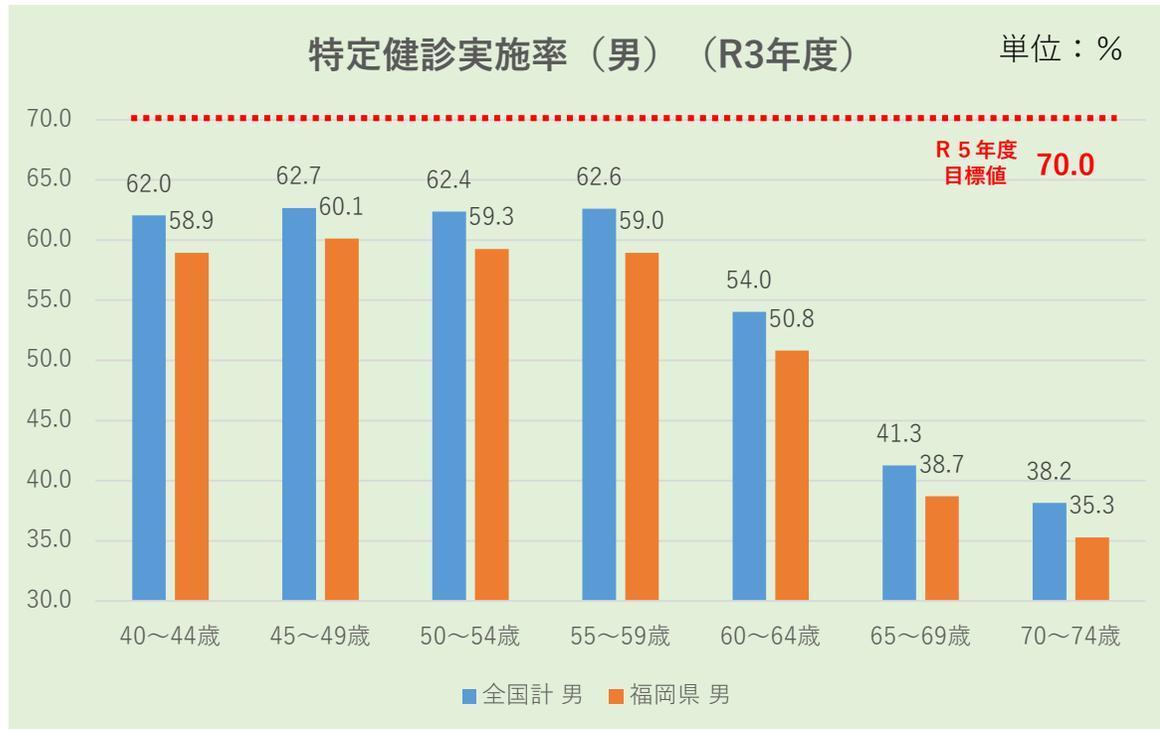
出典：「特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況」（厚生労働省）



出典：特定健康診査・特定保健指導の実施状況（厚生労働省）
 ※国保組合は、保険者番号が0040で始まる組合を集計
 ※健康保険組合（単一）は、保険者番号が0640で始まる組合を集計
 ※共済は、保険者番号が3240で始まる組合を集計

特定健康診査の実施率

- ・ 本県の受診率は、いずれの年代においても、男女ともに全国値を下回る実施率となっている。
- ・ 男性と比較し、女性の受診率が低い傾向にある。
- ・ 65歳以上の年代で受診率が大きく低下し、特に男性の受診率が顕著に下がっている。



出典：「特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況」（厚生労働省）

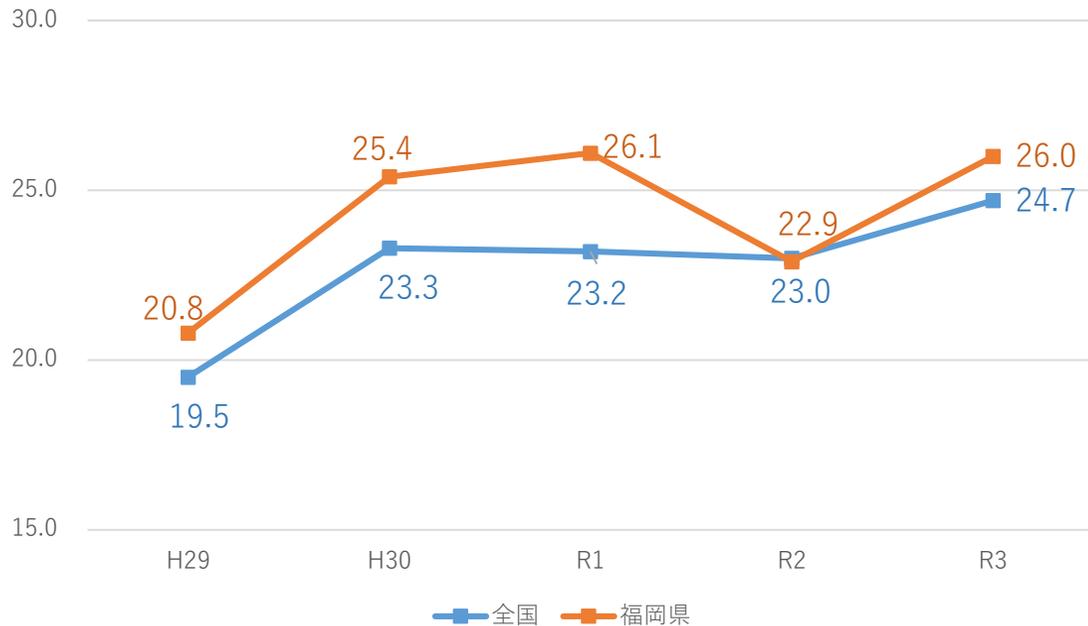
特定保健指導の実施率

- ・ 令和3年度の本県の実施率は、前年度と比較して3.1ポイント上昇し、26.0%となっている。
- ・ 令和2年度を除き、全国値を上回る実施率となっている。
- ・ 令和3年度の保険者別の実施率は、いずれの保険者も前年度から上昇している。

R5年度目標値
45.0

特定保健指導実施率

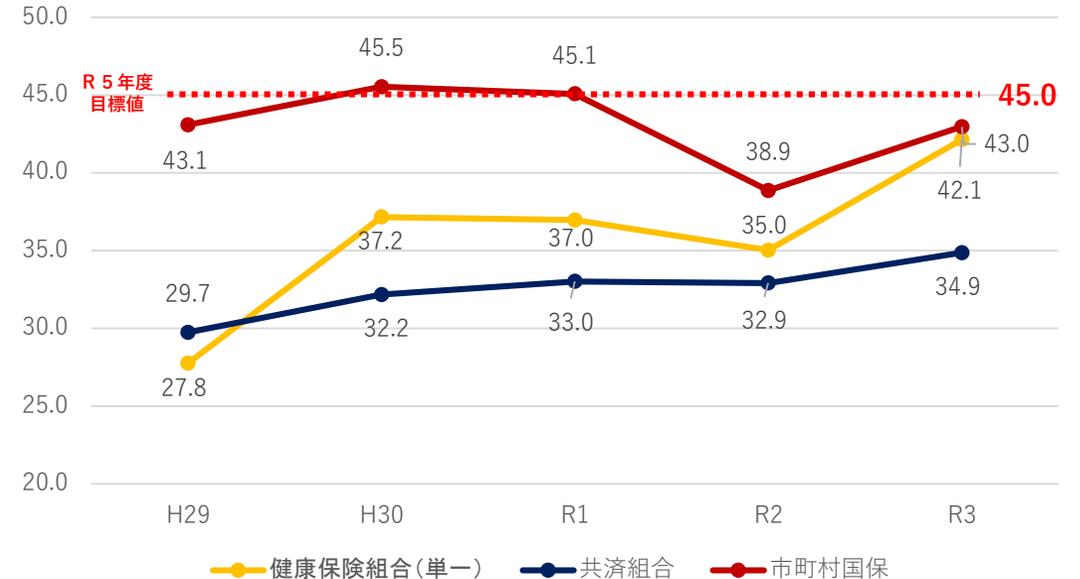
単位：%



出典：「特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況」（厚生労働省）

福岡県の特定健康保健指導実施率（保険者別）

単位：%



出典：特定健康診査・特定保健指導の実施状況（厚生労働省）

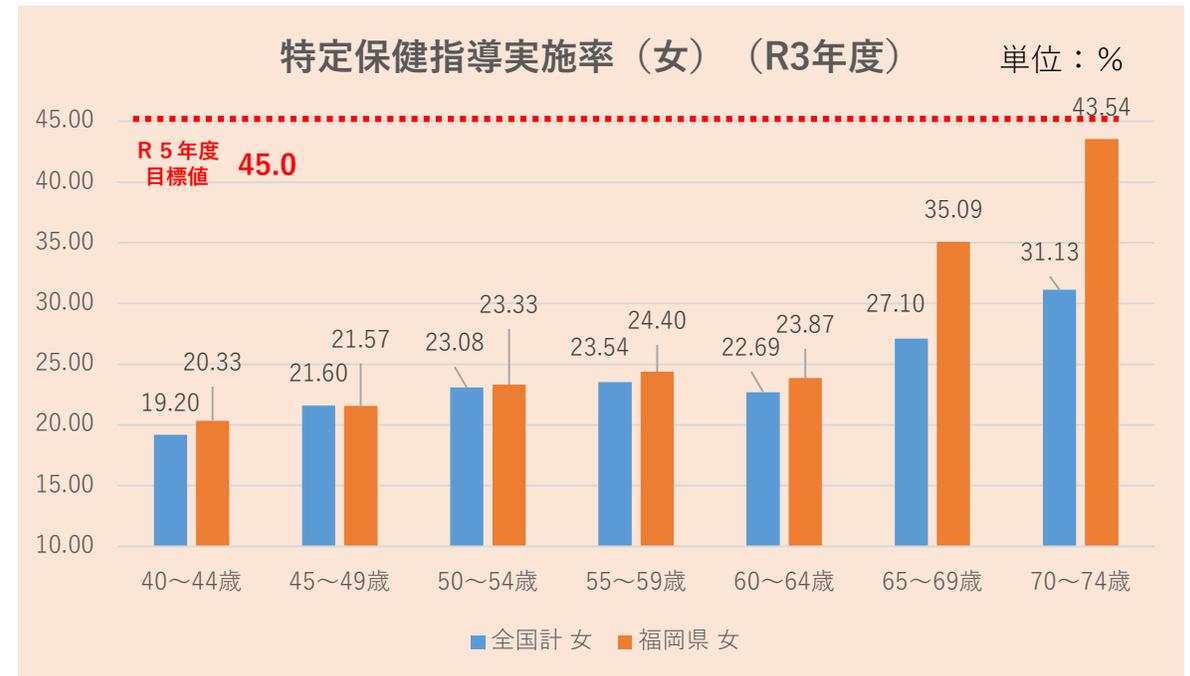
※極端に人数が少ない性・年齢階級は、個人の識別可能性の観点から非公開となっており、国保組合（県）は、対象者数及び終了者数が公表されていない

※健康保険組合（単一）は、保険者番号が0640で始まる組合を集計

※共済は、保険者番号が3240で始まる組合を集計

特定保健指導の実施率

- 令和3年度の本県の実施率は、69歳以下の年代で、令和5年度の目標(45%以上)達成の目安である37.2%を下回っている一方、男女ともに、70歳以上の年代では37.2%よりも高くなっている。
- 本県の65歳以上の実施率は、男女ともに全国値を上回っている。



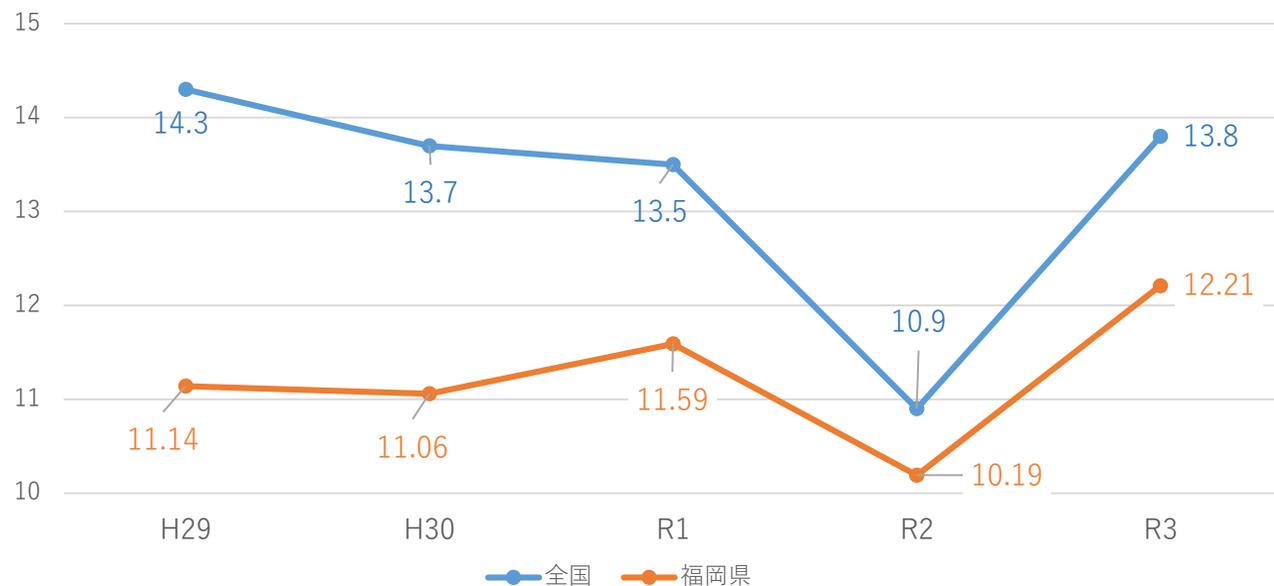
出典：「特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況」（厚生労働省）

メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率

- ・ 令和3年度の本県の減少率は、前年度と比較して2.02ポイント改善し、12.21%となっている。
- ・ いずれの年度においても、全国値を下回る減少率となっている。

R5年度目標値
25以上

メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率 単位：%



各年度減少率計算式

各年度における
メタボリックシンドローム
の該当者及び予備群の減少率

平成20年度
特定保健指導対象者

当該年度
特定保健指導対象者

=

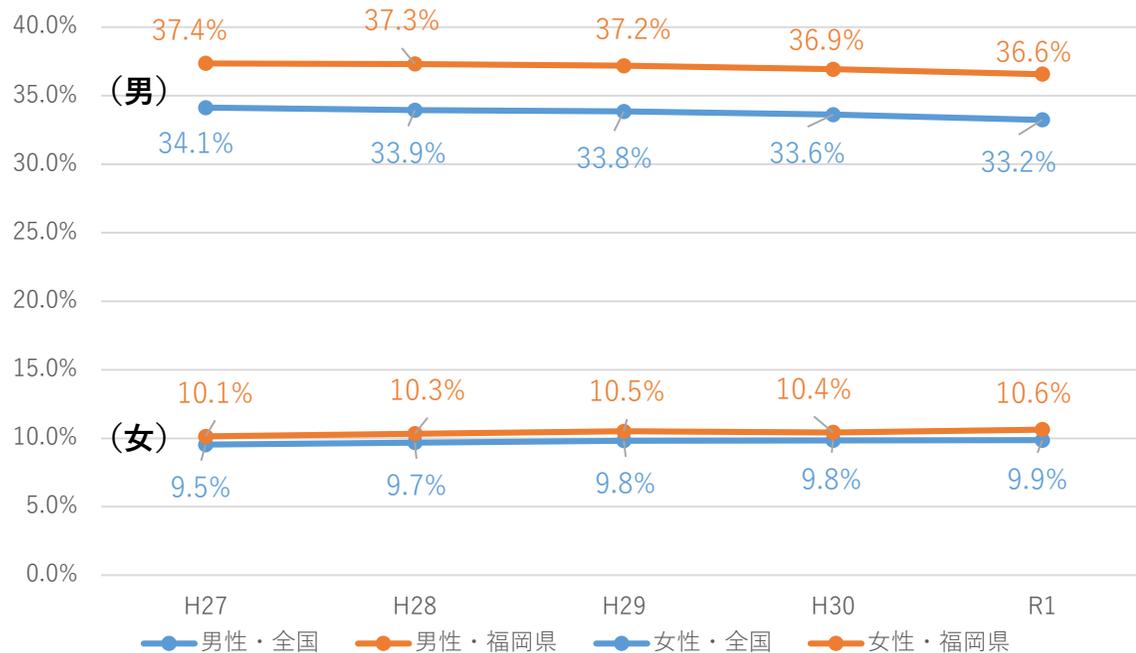
平成20年度
特定保健指導対象者

出典：「特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況」（厚生労働省）

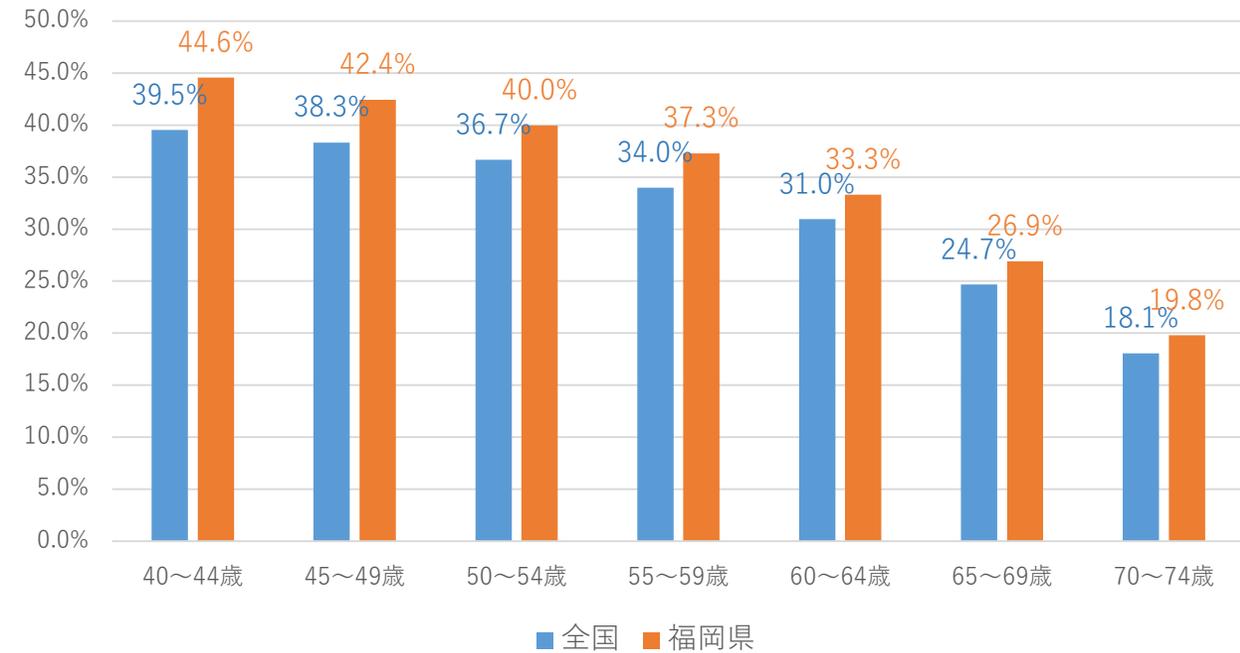
現在、たばこを習慣的に吸っている者

- 本県のたばこを習慣的に吸っている割合は、男女とも全国平均よりも高い。
- 令和元年度は、男性は全年代で全国平均を上回っており、特に40歳～44歳は全国平均を約5ポイント上回っている。

現在、たばこを習慣的に吸っている（40歳～74歳）



現在たばこを習慣的に吸っている（令和元年度、男性、年代別）



出典：NDBオープンデータ

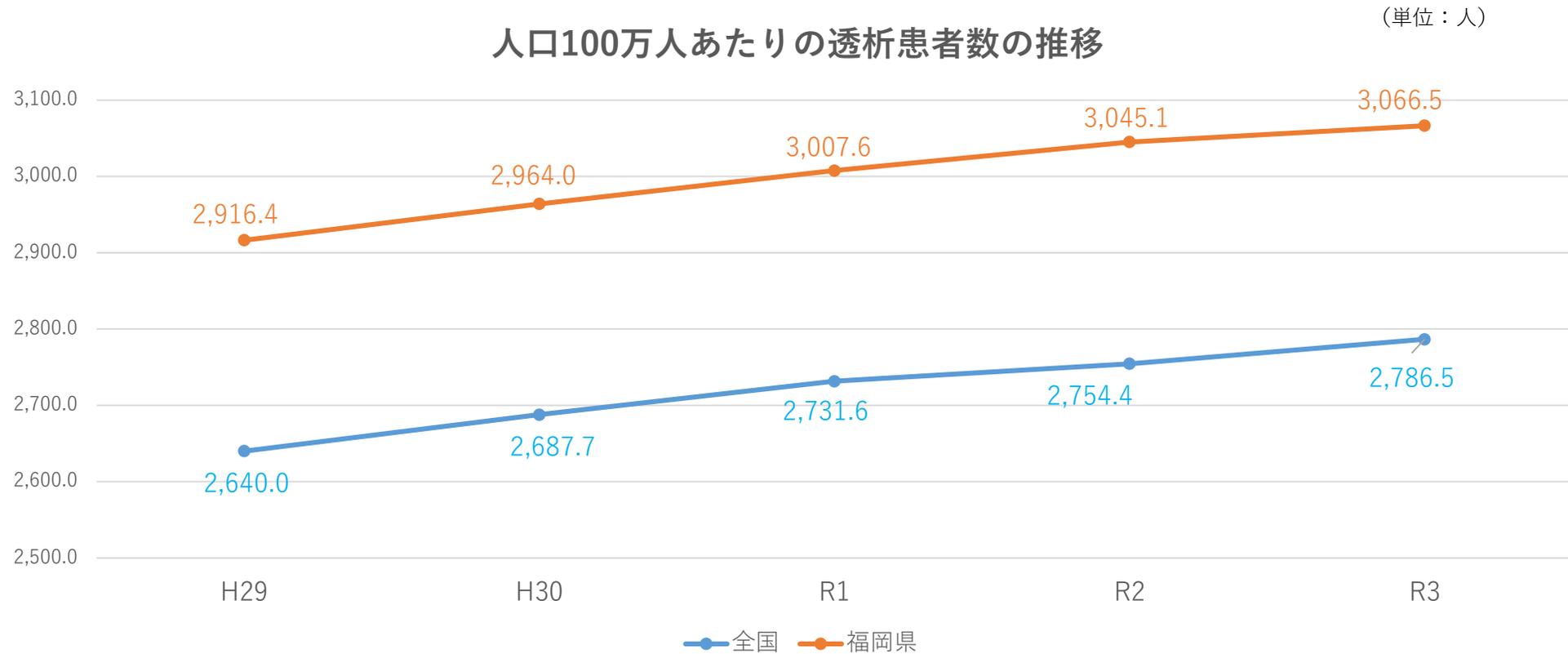
特定健診における標準的質問⑧

現在、たばこを習慣的に吸っている。

（「これまで合計100本以上、又は6ヶ月以上吸っている者」であり、最近1ヶ月間も吸っている者）

人工透析の現状

- ・令和3年度の本県の人工透析患者数は、人口100万人あたり3,066.5人。
- ・年々増加しており、かつ全国値を上回っている。

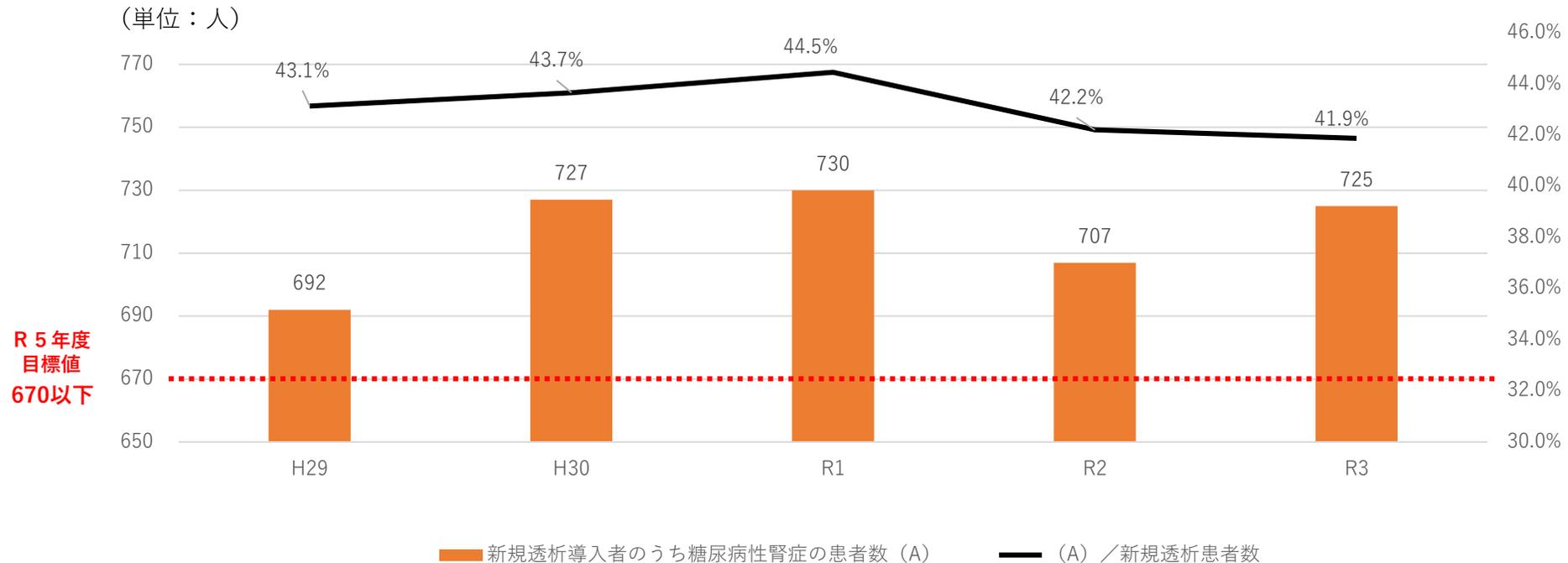


出典：日本透析学会「わが国の慢性透析療法の現況」

新規透析導入者のうち糖尿病性腎症患者の割合

- 令和3年度の新規透析導入者のうち糖尿病性腎症患者の割合は41.9%で、平成29年度と比較して1.2ポイント減少している。

福岡県の新規透析導入者のうち糖尿病性腎症患者の割合



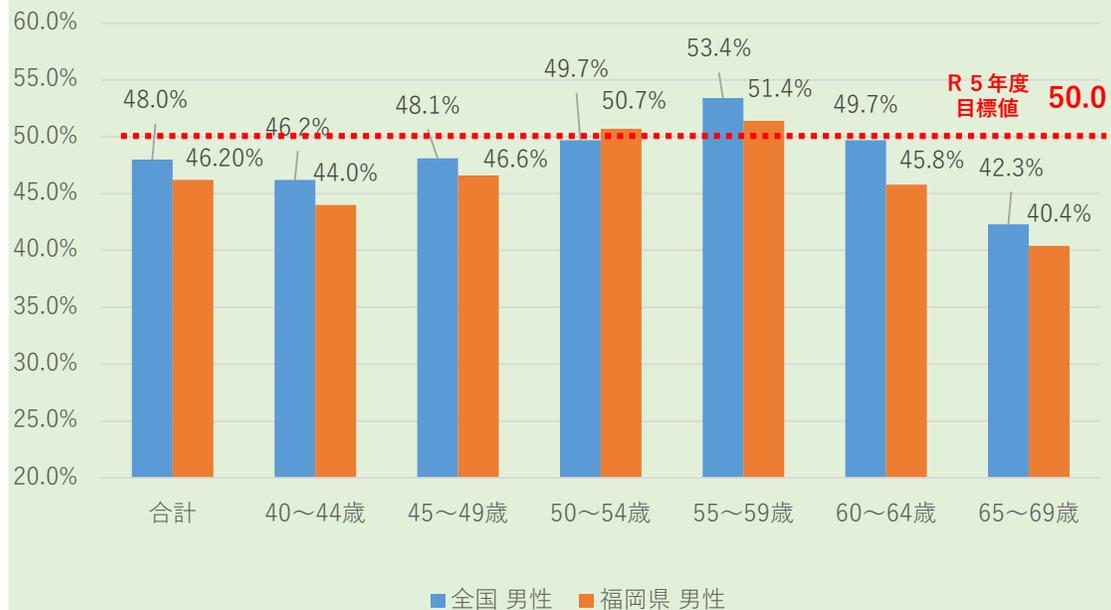
出典：日本透析学会「わが国の慢性透析療法の現況」

※「新規透析導入患者」とは、新規透析導入患者のうち、原疾患に記入があった患者をいう

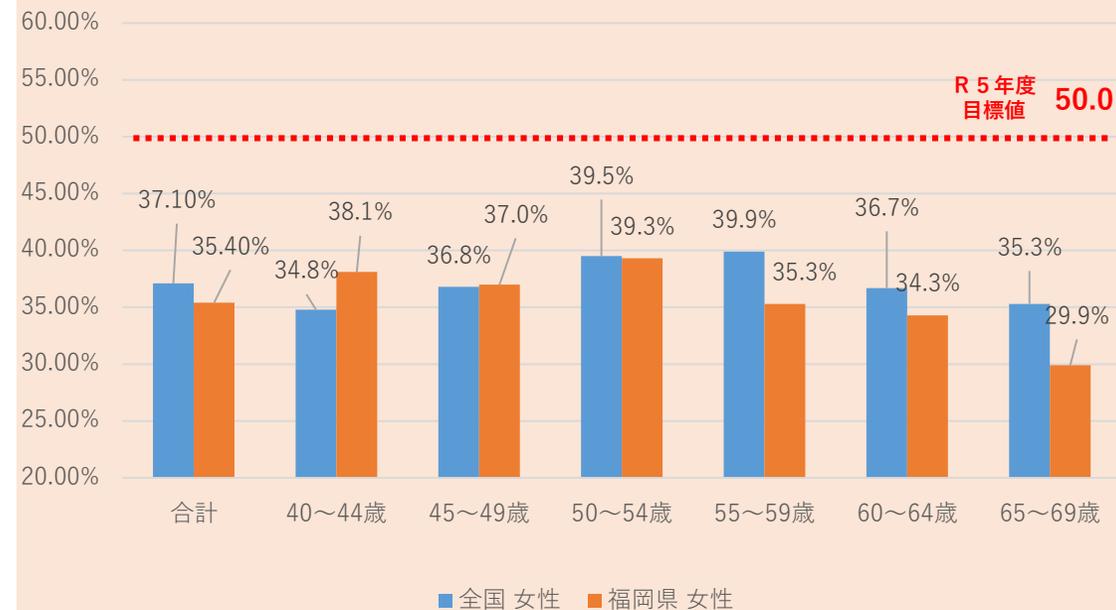
がん検診（胃がん）の受診率

- 本県の令和元年度のがん検診（胃がん）の受診率は、男性・女性共に全国平均を下回っている。
- 男性より女性の受診率が低い。
- 年齢階級別では、男性は40～44歳、65～69歳が低く、女性は60～69歳が低い。

検診受診率（男：胃がん）（R1年度）



検診受診率（女：胃がん）（R1年度）

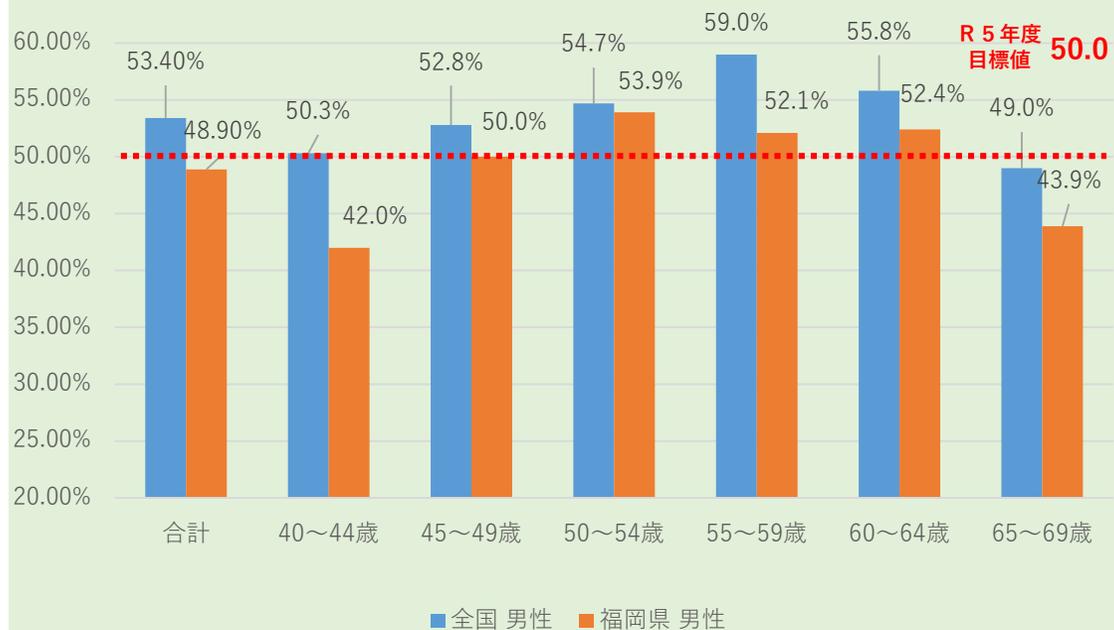


出典：国民生活基礎調査

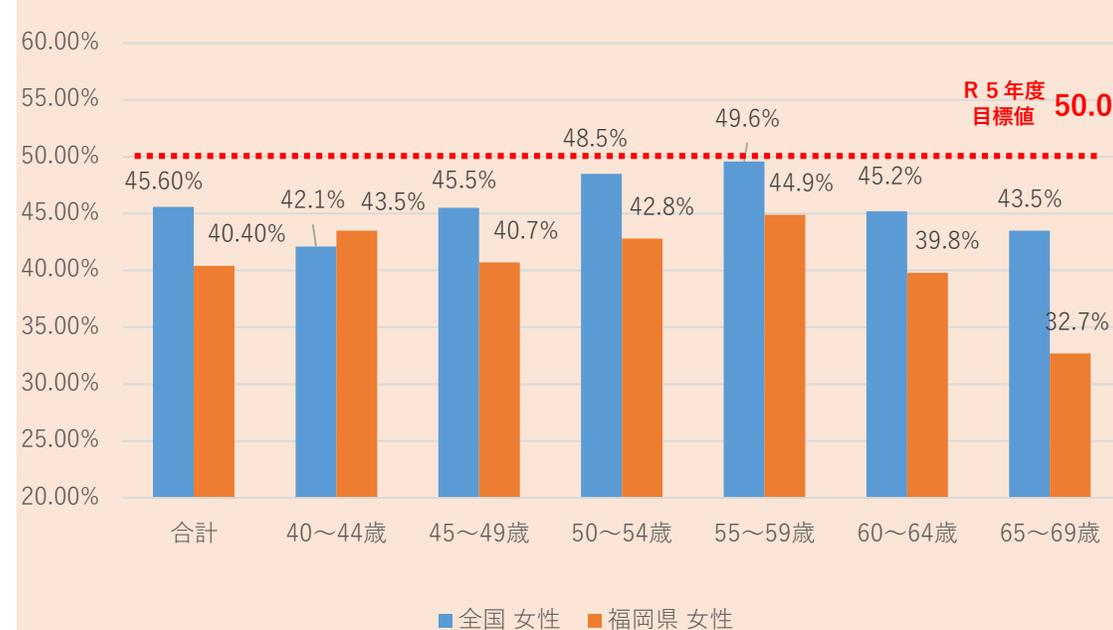
がん検診（肺がん）の受診率

- 本県の令和元年度のがん検診（肺がん）の受診率は、男性・女性共に全国平均を下回っている。
- 男性より女性の受診率が低い。
- 年齢階級別では、男性は40～44歳、65～69歳が低く、女性は60～64歳が低い。

検診受診率（男：肺がん）（R1年度）



検診受診率（女：肺がん）（R1年度）

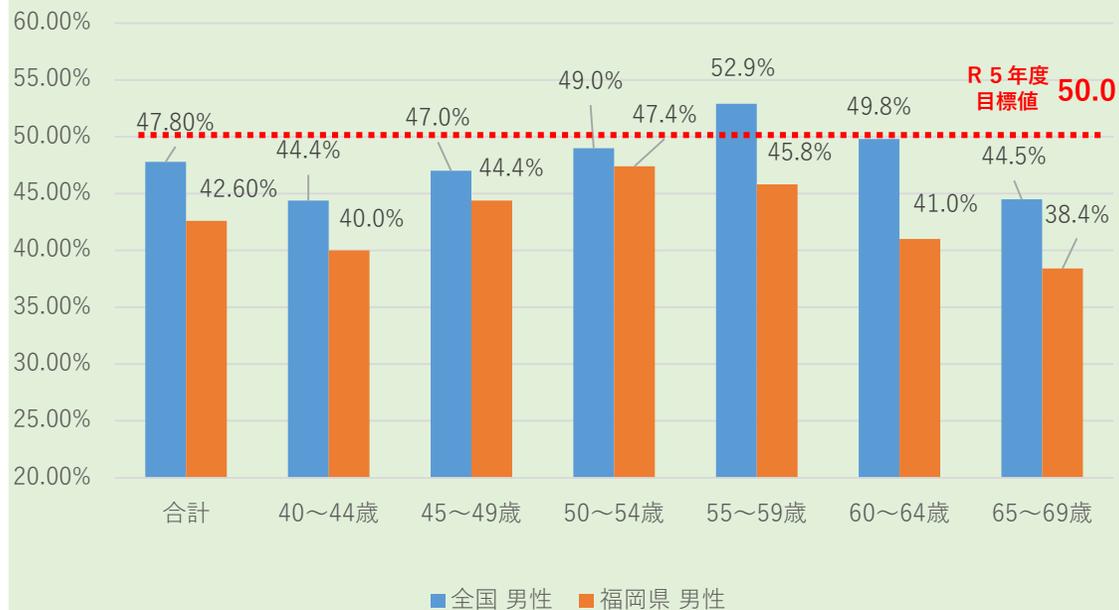


出典：国民生活基礎調査

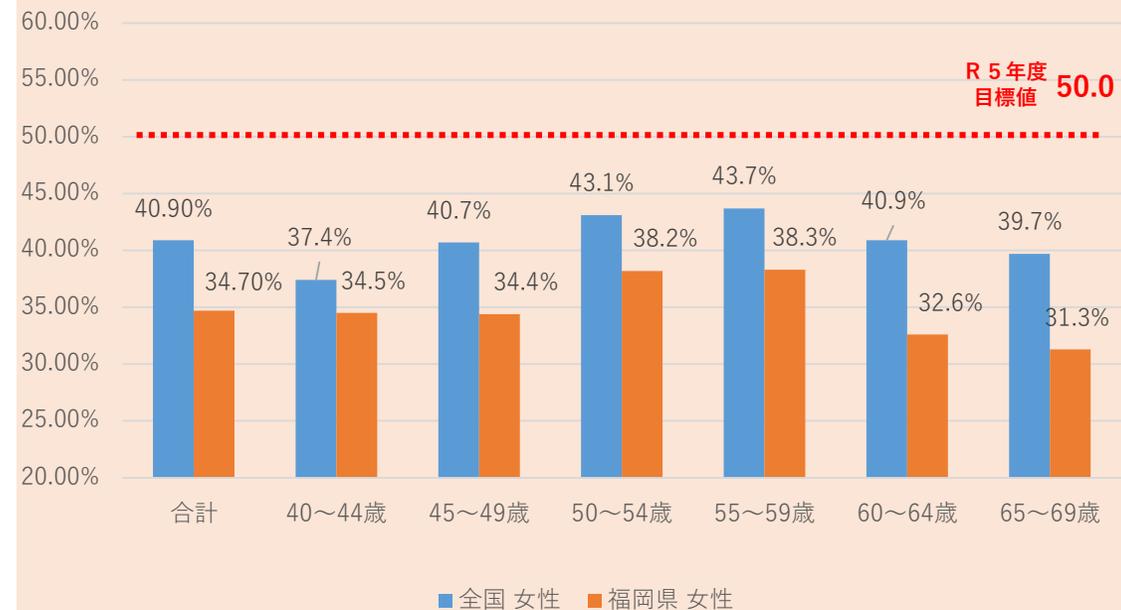
がん検診（大腸がん）の受診率

- ・ 本県の令和元年度のがん検診（大腸がん）の受診率は、男性・女性共に全国平均を下回っている。
- ・ 男性より女性の受診率が低い。
- ・ 年齢階級別では、男性は40～44歳、65～69歳が低く、女性は60～69歳が低い。

検診受診率（男：大腸がん）（R1年度）



検診受診率（女：大腸がん）（R1年度）

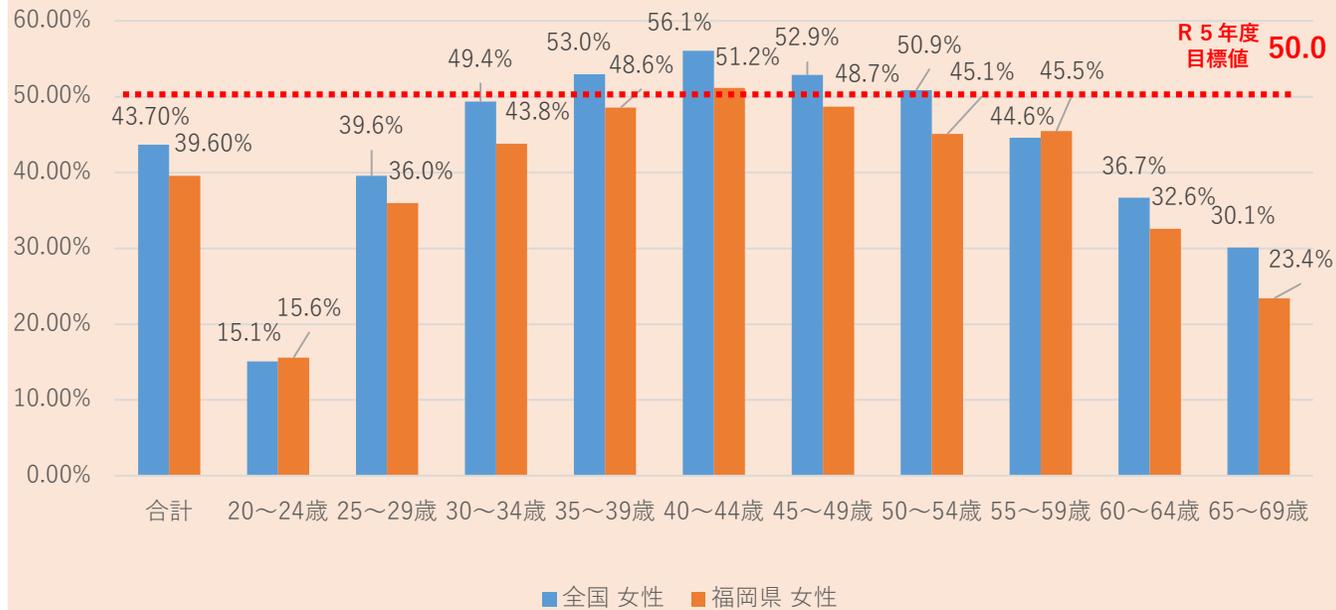


出典：国民生活基礎調査

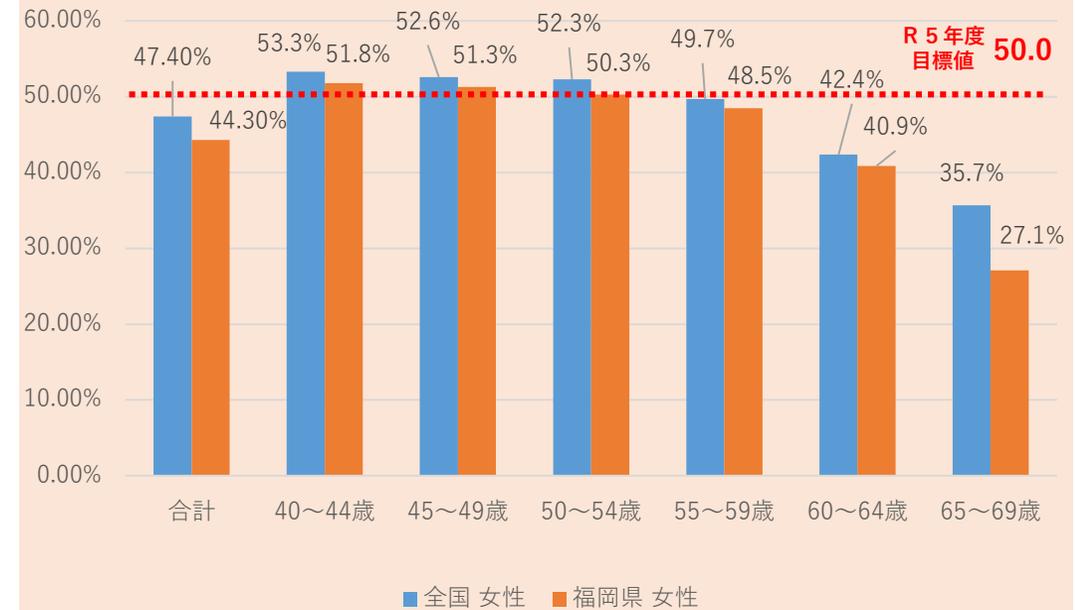
がん検診（子宮頸がん・乳がん）の受診率

- ・ 本県の令和元年度のがん検診（子宮頸がん・乳がん）の受診率は、全国平均を下回っている。
- ・ 年齢階級別では、子宮頸がん検診は20～24歳、60～69歳が低く、乳がん検診は60～69歳の受診率が低い。

検診受診率（子宮頸がん）（R1年度）



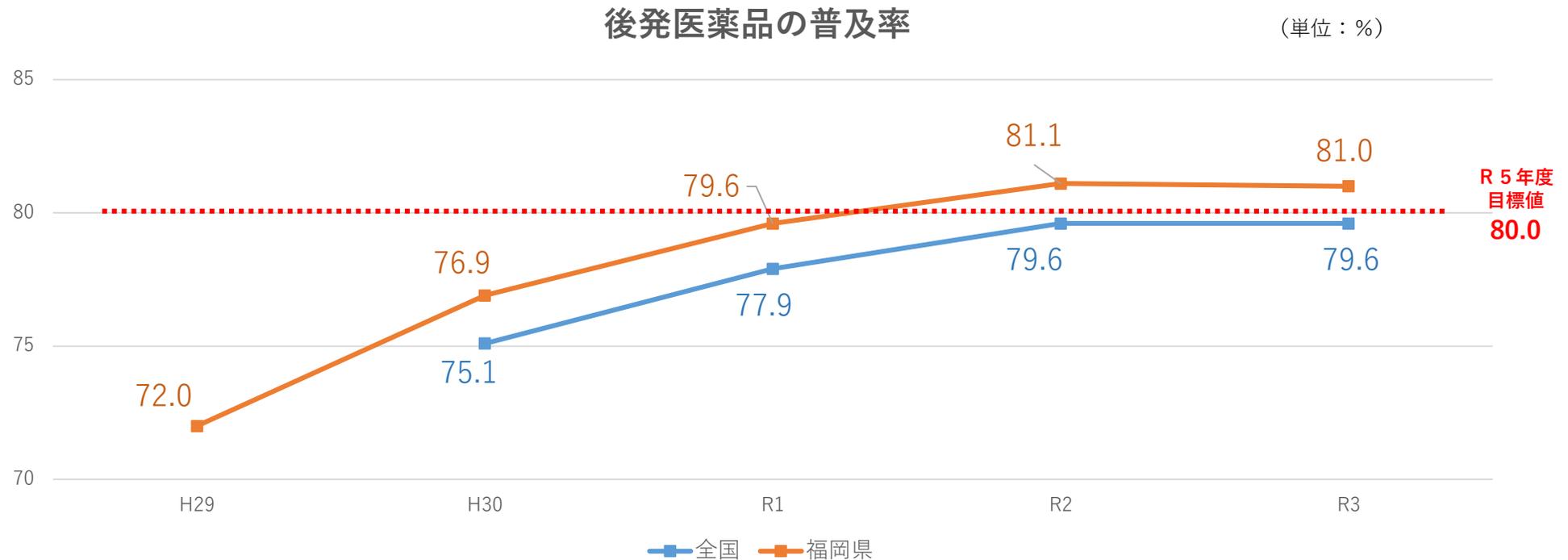
検診受診率（乳がん）（R1年度）



出典：国民生活基礎調査

後発医薬品の普及率

- ・ 本県の令和3年度の後発医薬品の普及率は81.0%であり、令和5年度の目標値である80%を達成している。



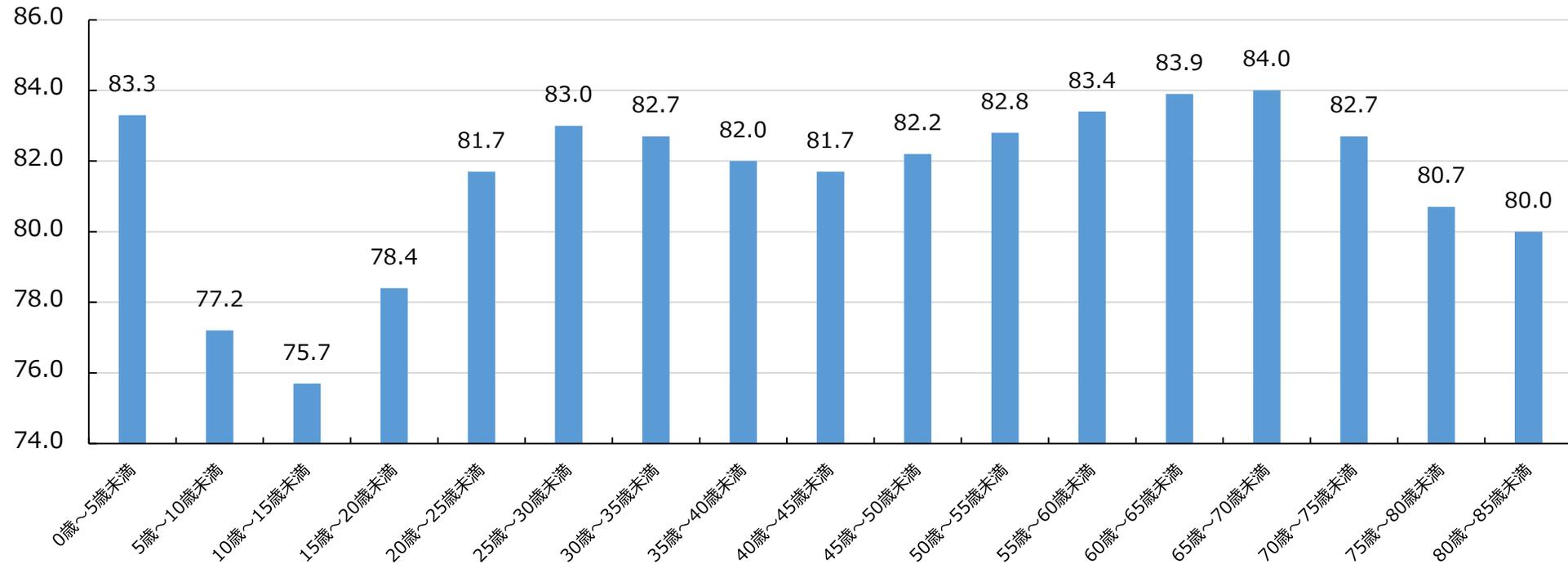
出典：NDBデータセット（厚生労働省）
国のR29年度数値は未発表

後発医薬品の普及率

- 令和3年度の全国の15歳未満の子どもの普及率は80%以下と低く、また、75歳以上の高齢者も低くなる傾向にある。

後発医薬品の普及率（R3年度）（全国、年齢階級別）

（単位：％）



出典：「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向（※）（厚生労働省）」

※「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向」は、審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としており、NDBデータ等よりも使用割合（数量ベース）が若干高め（2ポイント程度）に出る傾向がある。

後発医薬品の使用状況に関するアンケート調査

■後発医薬品の使用状況に関するアンケート調査（子どものジェネリック医薬品の使用）

①調査対象・方法

令和2年度に、北九州市・福岡市の15歳未満を対象とした資料送付による啓発を実施。

併せて、後発医薬品の使用状況を把握することを目的としたアンケートを実施。

- （対象）
- ・北九州市在住の15歳未満の国民健康保険被保険者及びその保護者
 - ・福岡市在住の15歳未満の国民健康保険被保険者及びその保護者

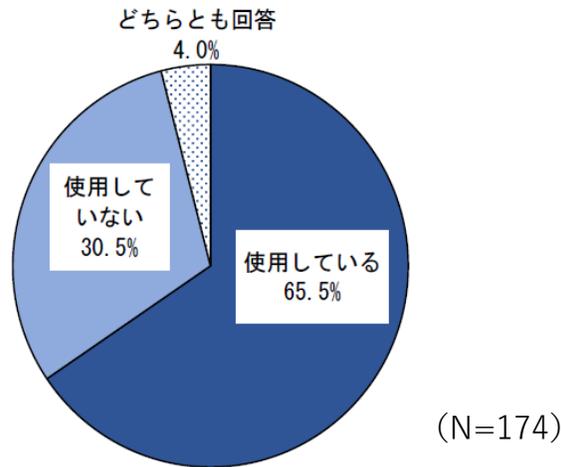
②調査期間

- ・令和2年11月30日(月)～令和2年12月18日(金)

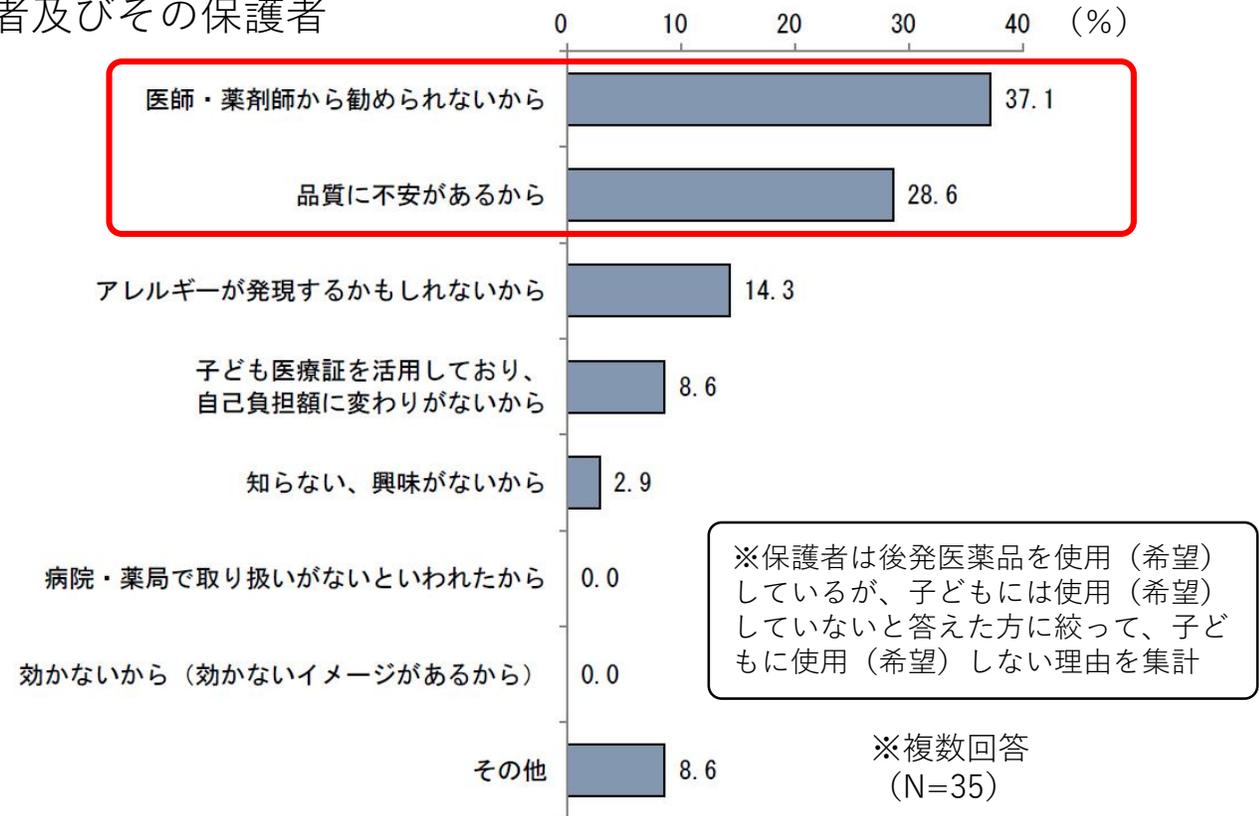
③サンプル数

- ・配布数：1,108世帯
- ・回答数：174世帯（回収率15.7%）

④調査結果



調査結果1：子どものジェネリック医薬品の使用（希望）状況



調査結果2：使用（希望）しない理由